

弘前大学医学部附属病院で診療を受けられた皆様へ

当院では下記の臨床研究に用いるため、患者さんの試料・情報を利用させていただいておりますので、お知らせいたします。

研究課題名： 泌尿器癌、透析患者における貧血と血清ヘプシジン濃度の関係についての検討

研究の目的

慢性腎不全や癌では貧血が問題となります。これらの貧血では、ヘプシジンという肝臓で産生される物質が深く関与しており、貧血の治療効果や予後を表す指標となることが示唆されています。しかしその臨床的意義、正常値の範囲、介入（治療や詳しい検査）が必要とされる目安となる値、生存や再発を予測する因子としての意義については未解明です。これまでヘプシジンの測定は煩雑で高価で簡便に測定できませんでしたが、簡便にヘプシジン測定ができるようになりました。本研究は、慢性腎不全や泌尿器癌での血清ヘプシジン濃度の臨床的な重要性を検討するものであり、意義の大きいものであると考えられます。

研究実施期間： 年 月 日 ～2025年3月31日
(倫理委員会承認日)

対象となる方： 2015年から2022年の間に、弘前大学医学部附属病院、鷹揚郷腎研究所弘前病院で泌尿器科疾患に対し治療を行なった患者。疾患名：前立腺癌（内分泌療法、化学療法、手術治療、放射線療法、密封小線源療法、核医学治療、骨修飾薬等）、尿路上皮癌（手術、化学療法、免疫療法、放射線療法等）、腎癌（手術、分子標的薬、免疫療法、放射線療法等）、慢性腎不全、悪性腫瘍ではないと診断された患者さん（前立腺肥大症など）として研究に協力いただいた方

利用させていただきたい試料・情報について

(他機関に提供する場合、提供先機関の名称及び当該機関の研究責任者氏名含む)

過去に採取された血液をもちいて血清ヘプシジン濃度、ヘモグロビン濃度、体内の鉄に関する指標、炎症指標を、弘前大学に集積して測定します。血清ヘプシジン濃度は、富士フイルム和光純薬株式会社で製造販売しているヘプシジン測定キットの提供を受けて測定します。この研究は同社からの受託研究のため、測定データの一部を提供し解析の補助を行うことがあります。カルテ記載より臨床情報、治療効果、再発、予後等について評価します。ヘプシジンこの場合は通常診療で得られた情報のみを用いる後ろ向き研究であり、新たな侵襲や負担が発生することはありません。

なお、利用に当たっては氏名、住所、電話番号、患者番号等個人を特定できる情報を削除し、本研究のための固有の番号を付して（これを匿名化といいます）、行います。

研究成果については、学会発表や論文投稿等の方法で公表されますが、その内容から対象者個人が特定される事はありません。研究から得られた個別の結果、については原則とし

てお答えしませんが、希望される方は下記連絡先までご連絡ください。

本研究課題について、より詳細な内容をお知りになりたい場合や、試料・情報の利用に同意いただけない患者さん／その代理人の方は、以下の連絡先までご連絡ください。

研究への利用に同意いただけない場合、当該患者さんの試料・情報については対象から除外します。ただし、連絡いただいた時点で既に研究成果公表済の場合は、該当者のデータのみを削除する等の対応は出来かねますので、ご了承ください。

本件連絡先	弘前大学 医学部 泌尿器科学講座 岡本 哲平 メールアドレス： t-okamoto@hirosaki-u.ac.jp TEL：0172-39-5091
--------------	--